

府内初のデアギュラウイルス（DAGV）検出事例について

中丹家畜保健衛生所

○久保田直樹 吉良卓宏

【はじめに】 DAGV はウシ異常産への関与が疑われているアルボウイルスである。今回、京都府内への侵入状況調査を実施したところ DAGV を検出したので報告する。【材料と方法】未越夏牛を対象とした牛流行熱等抗体調査の保存血清 1904 検体（平成 17～30 年度）を用い、中和試験による抗体検査を実施。【結果】平成 25 年 1 検体で抗体価 16 倍、1 検体で 32 倍、平成 26 年 1 検体で 8 倍、平成 29 年 1 検体で 8 倍、3 検体で 16 倍、9 検体で 32 倍、7 検体で 64 倍、1 検体で 128 倍、平成 30 年 1 検体で 32 倍を検出。平成 30 年は同時に採材した全血のうち洗浄血球から DAGV 特異的遺伝子を検出、追加で実施した 12 月採材の検体も抗体価 16 倍、洗浄血球から DAGV 特異的遺伝子を検出。特異的遺伝子を検出した 2 検体について、DAGV 第 2 分節に特異的な領域のシーケンス解析より、平成 30 年 8 月に動物衛生研究部門九州研究拠点のおとり牛から分離された DAGV と当該領域の配列が 100%一致。

【考察】今回 1904 検体中 26 検体で DAGV の中和抗体を検出、平成 26 年 8 月の 1 検体は翌月の検査で抗体検出されなかったことから非特異反応と考えられたが、複数年にわたり京都府内に DAGV が侵入した可能性あり。さらに平成 30 年の検体で DAGV 特異的遺伝子が検出され、同年夏に九州地方に侵入した DAGV と由来を同じくするウイルスが京都府内にも侵入した可能性を強く示唆。関係者への啓発が必要。